保育所実習事前事後指導の授業改善に向けた検討
－学生の満足度の調査から－

A Study On Class Improvement of Pre-post Guidance to Child Care Field：

From Survey of Student Satisfaction

椋田 善之*　下里 里枝*
Yoshiyuki MUKUDA　Satoe SHIMOZATO

抄　録

昨今，保育士の有効求人倍率は全職種と比較すると依然高く，保育士不足は深刻な問題となっており，保育の質向上以前に，その対策は急務となっている。また，保育士資格取得者は年々増加しているものの，保育所等は働かない保育士が数多く存在している。そこで，養成校の役割としては，学生が保育士になりたいと思える授業展開を実施し，保育所実習の経験を通して保育所等で働く保育士を増やしていく必要がある。そのためにも，現在の指導のあり方を検討することが求められている。

調査の結果，保育所実習事前事後指導の授業での満足度が高い学生は，保育所実習での満足も高くなっていた。そのため，担当教員はこれを踏まえて授業改善に努めることが必要であることが示唆された。

Ⅰ　問題の所在と目的

2022 年 7 月の保育士の有効求人倍率は 2.21 倍（対前年同月比で 0.08　ポイント下落）となっているが，　全職種平均の 1.26 倍（対前年同月比で 0.15 ポイント上昇）と比べると，依然高い水準となっている。[1)]このような中，保育士養成については，厚生労働省雇用均等・児童家庭局長　(2022）による「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」に基づいての『第１　性格』で「保育に関する専門的知識及び技術を習得させるとともに，専門的知識及び技術を支える豊かな人格識見を養うために必要な幅広く深い教養を授ける高等専門職業教育機関としての性格を有する。」[2)]との記載があり，細かな指定基準に従ってカリキュラムを編成し，保育分野での就業率，定着率を高めるための授業に取り組んでいる。前田（2017）によると保育実習所事前事後指導は，保育所実習の効果を高めるために重要な科目であり，志望動機が低い学生は実習目標を意識させることによって保育実習経験の効果が高まるようであった。[3)]また，室井ら（2022）によると保育所実習そのものの経験は，保育職のイメージを左右するものであり，事前に実習への不安や固定観念を取り除くことや実習施設と連携を取ることの必要性を述べている。[4)]

保育士養成コースには，学生が通園していた保育所の担当の保育士にあこがれ保育士になりたいという夢を持って入学する積極的な学生や，資格・免許だけ取りたいという消極的な学生など様々で，学生の能力も多様化している。この状況では，保育所実習事前事後指導の 15 コマの枠のみでは十分な指導が難しいと担当教員は感じてきている。

＊　関西国際大学教育学部　教育総合研究所学内研究員

担当教員は，多様な学生への対応が急務であり，保育士になりたいと思う学生を増やすことが大学の使命であると考えている。実際に，中野（2005）は実習生の実習に対する達成感[注1)]や満足感に着目し，直接体験の具体的成果を重視する学生の要望に応えるような個別的・具体的指導を充実させると同時に，援助にかかわる視野を広げてゆく事前・事後指導が必要であると述べている。[5)]

そこで，本研究では，質問紙調査から保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導と保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度[注2)]を把握し，実習経験後の保育所への就職希望の動向を探った上で，今後の事前指導における指導のあり方の検討を目的とする。

Ⅱ　研究の方法

2-1. 質問紙調査の協力者及び時期

保育所実習Ⅰ事前事後指導と保育所実習Ⅱ事前事後指導を受講している関西国際大学の学生を対象に質問紙調査を行った。Google Form で作成した質問紙の UR コードと URL を Web 教材に貼り付け，回答は各自で行うよう，口頭で依頼した。

調査は，2022 年 11 月 29 日と 2022 年 12 月 1 日に実施し，2022 年 12 月 21 日まで回答を待った。質問紙調査の回収の結果，回答が得られたのは，保育実習Ⅰの受講者 45 名中 34 名，保育実習Ⅱの受講者 40 名中 27 名の計 61 名（回収率 71.7%）であった。質問項目は表 1 の通りである。

表 1　質問項目一覧

項目	質問内容
1	どちらの実習へ行きましたか？
2	保育所実習に対する満足感・達成感についてお聞きします。今回の実習の満足度を以下から選んでください。
3	その理由を教えてください。
4	実習に行って保育士になりたい気持ちになりましたか？
5	その理由を教えてください。
6	保育所実習事前事後指導に対する満足感についてお聞きします。今までの授業の満足度を以下から選んでください。
7	実習で役にたった内容はありますか？以下から選択してください。(複数回答あり)
8	授業改善してほしい内容はありますか？ある場合，以下に記述してください。

2-2. 質問紙調査の内容

質問紙調査は，学生の保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導と保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度と，実習の経験がその後の進路に影響しているか，事前事後指導の授業内のどのような取り組みが実習で役立ったと感じているのかどうかを明らかにするため，表 1 の質問項目を設定した。また，より改善点などを明確にするため，ぞれぞれの満足の理由や改善してほしい内容について回答を求めた。

2-3. 研究倫理への配慮

回答にあたって学生には，無記名で実施し，個人が特定されず回答内容がわからないようになってい

る。また，回答は必修ではなく，途中でやめてもいいようになっており，学生に不利益が及ばないことなどを事前に説明し，Google Form の説明欄にも同様の内容を記載した。なお，本調査は，関西国際大学研究倫理委員会の承認を得て実施している。(承認番号 R4-35)

2-4. 分析方法

本分析の統計処理を行うに際して，使用方法が簡便でフリーソフトであるＨＡＤ15.0（清水，2016）[6]を採用した。本研究では，ＨＡＤ15.0 を用いて，要約統計量と各項目間でクロス集計を行い，併せて χ^2 検定を行った。また，水準 0.05 で有意な差があった項目については，どの項目で有意差が明らかになっているのかを確認するために残差分析を行い，表に示している。なお，統計的に有意な差が出た項目は，保育所実習の満足と保育所実習事前事後指導の満足度に対する回答をクロス集計した場合のみであったため，それ以外の回答は回答数とパーセンテージのみを示している。

また，満足度の理由に対する回答を求めている自由記述の分析については，記述の傾向を見るために無料のテキストマイニングソフト KH Coder3 [7] を使用し，「共起ネットワーク」から分析を行い，よく出現している語とそのつながりに着目することで，自由記述の回答傾向を読み解くことを目的とした。

Ⅲ　結果及び考察

3-1. 保育実習Ⅰ・Ⅱに対する満足

Google Form で回答の傾向を確認したところ，図１のような結果となった。保育所実習全体に対する満足度についての回答数は，「とても満足」が 35（57.4%），「やや満足」が 23（37.7%），「やや不満」が３（4.9%）という結果となっており，本学から実習に行った学生の 58（95.1%）が満足している。そして，この回答を保育所実習Ⅰと保育所実習Ⅱに分けて傾向を確認したところ，図 2・3 のような結果となった。保育所実習Ⅰに対する満足度についての回答数は，「とても満足」が 16（47.6%），「やや満足」が 15（44.1%），「やや不満」が３（8.8%）であった。(図 2）一方，保育所実習Ⅱに対する満足度についての回答数は，「とても満足」が 19（70.3%），「やや満足」が 8（29.6%）となった。(図 3)

つまり，保育所実習Ⅰの学生は保育所実習Ⅱの学生では見られなかった「やや不満」を回答していることが特徴としてうかがえる。

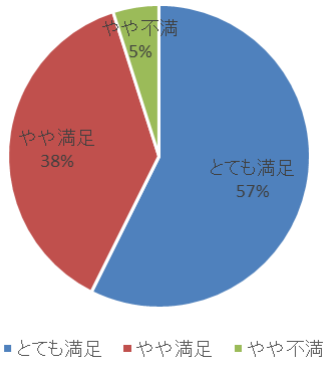

図１　保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度

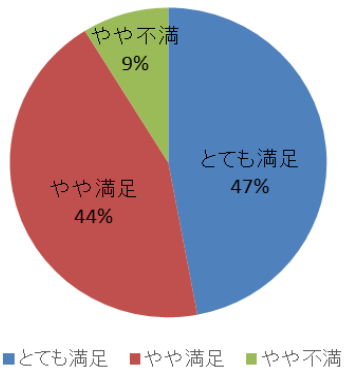

図２　保育所実習Ⅰの満足度

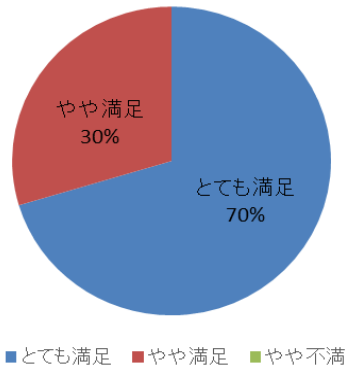

図３　保育所実習Ⅱの満足度

3-2. 保育所実習Ⅰ・Ⅱを経験した後の進路志望

そして，実習に行って保育士になりたい気持ちになったかどうかに関する回答は，「なりたいと思った」が 27（44.3%），「少しなりたいと思う気持ちになった」が 21（34.4%），「あまりなりたくない」が 9（14.8%），「なりたくない」が 4（6.6%）であった。この回答から，実習を通して保育士になりたいと思った学生は 48（78.7%）で，なりたくないと思った学生は 13（21.4%）となっていることがわかる。（図 4）保育士不足の問題を解消していくためにも，13（21.4%）の学生をなりたいと思うようにしていくための手立てを今後考えていく必要がある。

また，上記の回答を保育所実習Ⅰの学生と保育所実習Ⅱの学生に分けたところ，保育所実習Ⅰを経験した後の進路志望は，「なりたいと思った」という回答が 15（44.1%），「少しなりたいと思った」という回答が 9（26.5%），「あまりなりたくない」という回答が 6（17.6%），「なりたくない」という回答が 4（11.8%）であった。（図 5）一方，保育所実習Ⅱを経験した後の進路志望は，「なりたいと思った」という回答が 12（44.4%），「少しなりたいと思った」という回答が 12（44.4%），「あまりなりたくない」という回答が 3（11.1%）であった。（図 6）

つまり，保育所実習Ⅰの学生は，保育所実習Ⅱの学生には見られない「なりたくない」という項目を回答していることがうかがえる。

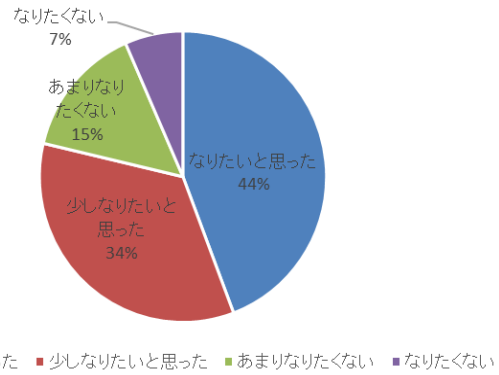

図４　保育所実習Ⅰ・Ⅱ経験後の進路希望

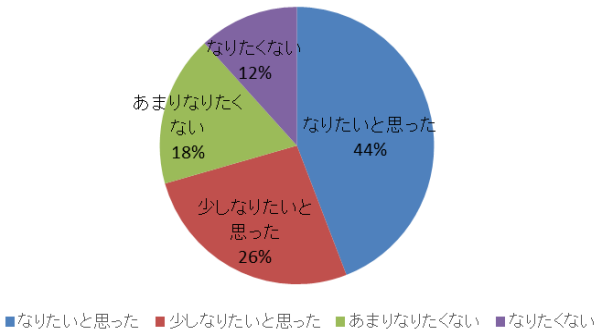

図５　保育所実習Ⅰ経験後の進路希望

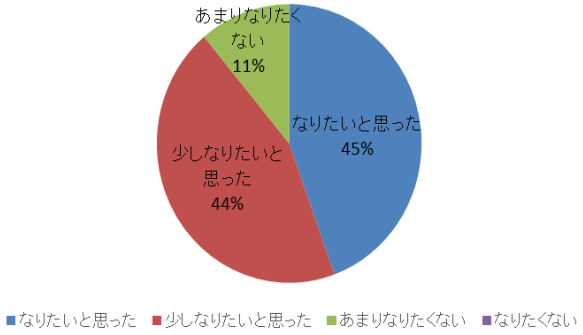

図６　保育所実習Ⅱ経験後の進路希望

3-3. 保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導の満足度

保育所Ⅰ・Ⅱ事前事後指導を受講して感じた満足度は，「とても満足」が 27（41.1%），「やや満足」が 29（47.5%），「やや不満」が 5（8.2%）であった。（図 7）この回答を保育所実習Ⅰ事前事後指導と保育所実習Ⅱ事前事後指導で分けると，保育所実習Ⅰ事前事後指導は「とても満足」が 14（44.2%），「やや満足」が 16（47.5%），「やや不満」が 4（8.2%）という回答数となった。一方，保育実習Ⅱ事前事後指導は「とても満足」が 13（48.1），「やや満足」が 13（48.1%），「やや不満」が 1（3.7%）という結果となった。

この結果からは，総計的に有意な差は見られず，回答においても保育所実習Ⅰ事前事後指導の学生と保育所実習Ⅱ事前事後指導の学生の回答の違いは特に見られなかった。

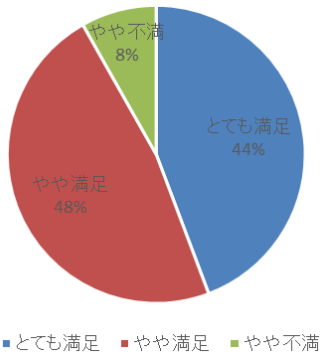

図７　保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導の満足度

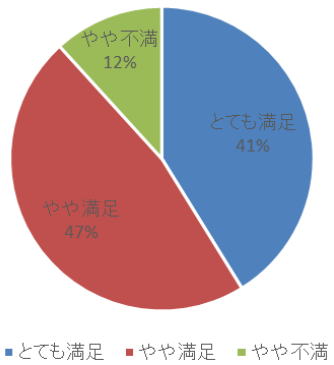

図８　保育所実習Ⅰ事前事後指導の満足度度

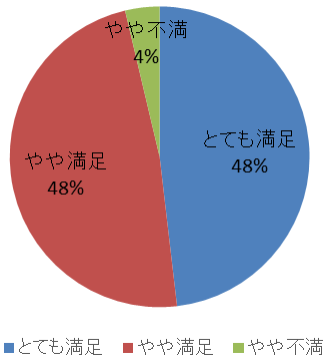

図９　保育所実習Ⅰ事前事後指導の満足度

しかし，質問項目の「実習で役に立った内容はありますか？」は回答が表 3 のようになった。「実習記録の書き方」が 43（70.5%），「指導案の書き方」が 36（59%）を占めており，保育所実習における実践において必ず求められる項目をあげていた。この２項目については，半数以上が授業で役に立った内容として回答していたが，自由記述からは「子ども達と関わることは楽しかったが，メモを取って，実習記録がたいへんだった」「記録が辛かった」「うまくかけなかった」等という回答もあり，記録の書き方に苦労していたことが伺える。つまり，授業内容については満足していたものの，その内容をうまく活用できているかというとそうではないことがあったようである。

一方，「子どもへの対応」が 31（50.8%）の回答であった。つまり，毎日書く記録や部分実習などで必ず必要となる指導案を除くと，子どもへの対応を学ぶことへの要望を感じ取ることができる。

これは，今年度始めて，系列園の 5 歳児に大学に来てもらい，学生と触れ合う機会を持ったことが役に立ったことからきている。授業では，事前にグループで一緒に遊ぶ内容を考えて，指導案を提出させた。大学内での活動場所を考え，当日は，図書室で絵本の読み聞かせをしたり，手作りのポーリングを廊下でしたり，大学のおもちゃを一緒にしたりと，各グループが計画した遊びを展開していた。子どもの目線に寄り添い，子ども達の反応に喜ぶ学生や，思うように遊んでくれず試行錯誤している学生もいた。保育所実習前に，幼児をイメージする良い機会となったといえる。

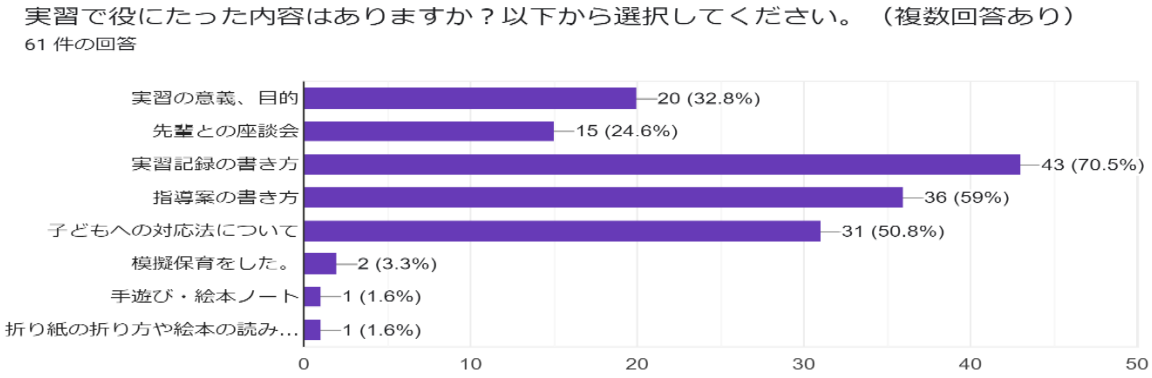

図 10　実習で役に立ったと感じる内容

3-4. 保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導と保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度

表 2 は，学生の「保育所実習事前事後指導に対する満足感についてお聞きします。今までの授業の満足度を以下から選んでください。」という回答と，「保育所実習に対する満足感・達成感についてお聞きします。今回の実習の満足度を以下から選んでください。」という回答のクロス集計を行い，水準 0.05 で有意な差がある項目に△（有意に多い）と▼（有意に少ない）で示している。

その結果，保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導に対する満足度を「とても満足」と回答する場合，保育所実習Ⅰ・Ⅱに対する「とても満足」の回答が有意に多かったが，「やや不満」の回答は有意に少なかった。一方，保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導に対する満足度を「やや満足」と回答する場合，保育所実習Ⅰ・Ⅱに対する「やや満足」の回答が有意に多かったが，「とても満足」の回答は有意に少なかった。つまり，保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前指導の満足度は保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度に影響している可能性があり、保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導に対する満足度を上げることが保育所実習Ⅰ・Ⅱへの満足度にもつながるといえる。

表 2　保育所実習事前事後指導と保育所実習の満足度

変数		保育所実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導に対する満足感					
	出現値	とても満足		やや満足		やや不満	
保育所実習Ⅰ・Ⅱに対する満足感・達成感	とても満足	**△ 22**	3.392	**▼ 11**	-2.924	2	-0.820
	やや満足	**▼ 5**	-2.755	**△ 15**	2.151	3	1.074
	やや不満	0	-1.583	3	1.866	0	-0.531

（△は有意に多い，▼は有意に少ない。p. ＜. 05）

3-5．進路志望が保育士になった学生の理由

そこで次に，実習を得て保育士という進路希望になるのか，そうではなくなるのかの理由を探る。まずは「なりたい」と回答した学生の理由に関する自由記述から分析を進める。本論文では，Khcoder3 を活用し，32 の自由記述を共起ネットワークで図式化した。その結果，以下のような傾向が見られた。(図 11)

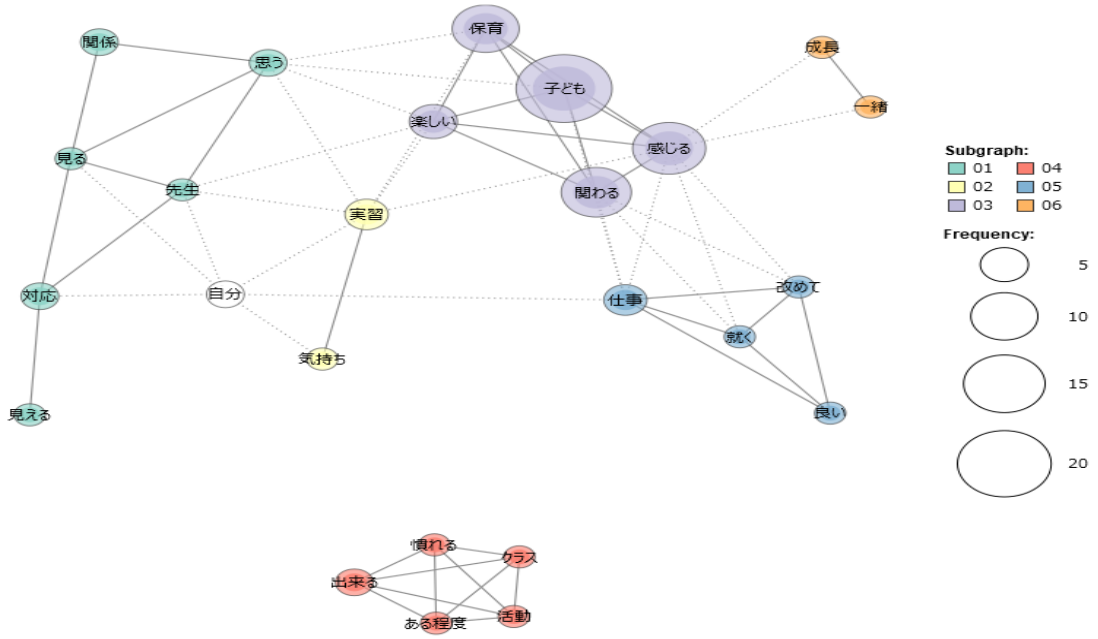

図 11　保育士になりたいと回答した学生の理由

図 11 を見るとわかる通り，回答は「子ども」「感じる」「関わる」「保育」「楽しい」という語群と，「仕事」「就く」「改めて」「良い」という語群，「先生」「見る」「思う」「関係」「対応」「見える」という語群，「クラス」「慣れる」「ある程度」「活動」「出来る」という語群，「成長」「一緒」という語群，「実習」「気持ち」という語群にそれぞれ分かれている。

まず，「子ども」「感じる」「関わる」「保育」「楽しい」という語群に見られた回答を抽出すると「子どもと保育士の関係を見たりすると愛着関係がしっかり形成されているのでそんな関係になりたい」「小さな子どもたちと関わる中で，一緒に成長したいと感じた為」「大人数の子どもに対する保育は苦手であると感じたが，個人的に少人数の子どもと関わることが合うと感じたため」「保育士のやりがいや子どもと関わる楽しさを感じたから」という回答が見られた。

続いて，「仕事」「就く」「改めて」「良い」という語群に見られた回答を抽出すると「子どもと関わるという仕事に就きたいと改めて感じたから」「とてもやりがいのある仕事だと感じたから」「園それぞれ良さがあり，子どもたちの関わり方を知ることができ子どもたちと関わる仕事に就きたいと改めて感じ

たから」という回答が見られた。

さらに，「先生」「見る」「思う」「関係」「対応」「見える」という語群に見られた回答を抽出すると「自分が対応に困っていた子どもの欲求を受け入れつつ，見事に対応していた先生の姿を見たから」「指導をしていく中で今まで見えていなかった保育士の対応や考え方が見えたから」「子どもと保育士の関係を見たりすると愛着関係がしっかり形成されているのでそんな関係になりたいと思ったから。」などのような回答が見られた。

そして，「クラス」「慣れる」「ある程度」「活動」「出来る」という語群からは，「10 日間同じクラスで活動して，ある程度慣れることが出来たため」「やっぱり子どもはかわいいし，保育士の考えていることを学ぶことが出来たから」という回答が見られた。

最後に「実習」「気持ち」という語群からは，「実習中は保育士になりたい気持ちが高まった」「子どもと関わることに楽しさを更に感じることができ，実習先で出会った先生方のような保育士になりたいと思ったからです」「実習自体は楽しいと感じたから」という回答が見られた。

以上の結果から，学生が実習を通して保育士になりたいと思う要因は，「子どもとの関わりに楽しさを感じること」や「実習を通して改めて仕事に就きたいと感じること」，「保育士と子どもとの関係性や子どもへの対応を見て，理想像に出会うこと」，「実習のそもそもの経験」が保育士になりたいと思う要因ではなかろうか。

3-6. 保育所実習に対して満足度がある学生の理由

ここでは，保育所実習Ⅰ・Ⅱに対して満足と回答した学生の理由に関する自由記述から分析を進める。64 の自由記述を共起ネットワークで図式化した結果，以下のような傾向が見られた。（図 11）

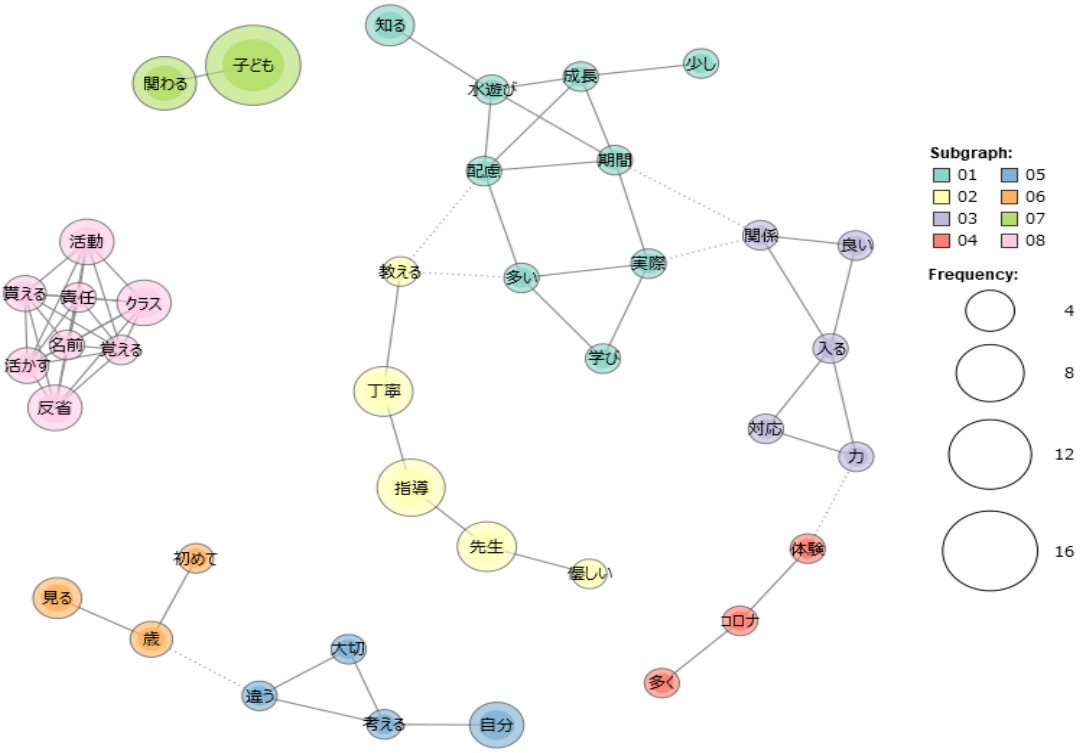

図 12　保育実習に対する満足度の理由

図 12 を見るとわかる通り，回答はそれぞれグループ化されており，今回はその中より，グループの

まとまりが多いものと丸の形が大きい（回答数が多い）以下のグループの回答を抽出する。つまり，「知る」「水遊び」「成長」「少し」「配慮」「期間」「多い」「実際」「学び」という語群と，「活動」「貰える」「責任」「クラス」「活かす」「名前」「覚える」「反省」という語群，「教える」「丁寧」「指導」「先生」「優しい」という語群，「関係」「良い」「入る」「対応」「力」という語群，「子ども」「関わる」という語群になる。

まず，「知る」「水遊び」「成長」「少し」「配慮」「期間」「多い」「実際」「学び」という語群から回答を抽出すると「子どもたちを見て，1 年でどのくらい成長するのか詳しく知ることができた。また，水遊びの期間に実習があったので水遊び中にはどういった配慮があるのか知ることができた」「上手くいかないことも多くあったが，声掛けや配慮の意図等を丁寧に教えて頂いたから。」「実際に 2 週間という長い期間いくことがなかったので子どもとの関係が深くなった」という回答が見られた。

次に，「活動」「貰える」「責任」「クラス」「活かす」「名前」「覚える」「反省」という語群からは「クラスの子どもの名前も覚えることができ，楽しかった。」「責任実習を 2 日させて貰えたので，1 回目の反省点を 2 回目に活かすことができたため」「積極的に活動をすることができたから」という回答となっていた。

そして，「教える」「丁寧」「指導」「先生」「優しい」という語群では，「先生に丁寧なご指導をしてもらえたから」「先生方が優しく丁寧に指導してくださったから」「先生方も優しく指導してくださって実習に行くことが苦ではなかったから」という回答が見られた。

さらに，「関係」「良い」「入る」「対応」「力」という語群では，「子どもとの信頼関係を築くことが出来たことが良かったから」「5 歳児の子どもたちに保育的な活動を提供でき，集団を見ながら個人に対応する力を身につけたから」「力になる体験だったから」などの回答が見られた。

最後に，「子ども」「関わる」という語群からは，「子どもたちへの支援方法，保育士の子どもたちへの言葉がけや関わり方を学ぶことができた」「子どもとの関わりで少し成長出来たから」
色々な子どもと関わることができた」「子どもとの関係が深くなり，ほかの年齢の子どもと関わることができたのがよかったです」という回答が見られた。

以上の結果から，「子どもたちの成長に触れること」や「その期間ならではの配慮事項を詳しく知ること」，「クラスの子どもたちの名前を覚えること」，「反省点を次に生かせたり，積極的に行動できたりすること」，「保育士による丁寧かつ優しい指導を受けること」「子どもたちと良い関係性を築くことが出来ること」，「子どもたちとたくさん関わり学べること」などが実習に満足度を高く持たせることができる要因となるといえよう。

Ⅳ　総合考察

4-1. 保育所実習Ⅰ・Ⅱの満足度と希望進路の違い

本研究では，統計的に有意な差は見られなかったものの，保育所実習Ⅰの学生は保育所実習Ⅱの学生では見られなかった「やや不満」8（29.6%）を回答していることが特徴として伺えるということが 3-1 の結果から明らかになった。この結果は，保育所実習Ⅰの学生は大学側が行き先を決め，実習に行かせていることや，保育所実習Ⅱの学生は保育所実習Ⅰの経験（保育所と施設）を踏まえた上で，実習先を自身で決めていることが要因となっていると予想される。

また，3-2 の結果からは，保育士に「なりたくない」4（11.8%）という項目を保育所実習Ⅰの学生にのみ見られた回答となっていることが明らかとなった。厚生労働省（2017）の調査研究において，保育士として働く意欲による満足度の違いは，保育実習ⅡまたはⅢで違いが見られ，保育士として働きたい

という意欲が上昇した学生は，意欲が低下した学生よりも実習先の指導の満足度が高かったことを明らかにしている。[9]つまり，この結果についても，上記に記載しているような行き先を自分で決めているかどうかという要因が満足度に関連し，それが進路志望に繋がったことが予想される。

4-2．保育所実習Ⅰ事前事後指導と保育所実習Ⅱ事前事後指導の授業改善

さらに，3-3 の結果からは，総計的に有意な差は見られず，回答においても保育所実習Ⅰ事前事後指導の学生と保育所実習Ⅱ事前事後指導の学生の回答の違いは特に見られなかった。しかし，一定の満足度はあったものの授業内容をうまく活用できていないことが伺えた。つまり，今後の指導のあり方の再検討に加え，15 コマという正規の授業時間以外においても，補講を行ったり，他教科との科目間連携によって指導を充実させたりしていく必要があるといえよう。中西ら（2013）は，「一人一人の学生の学びの実態に応じた教育のあり方を模索し続けている。各教員の個人の努力や取り組みの工夫を行っているものの，それには限界があり，養成にかかわる教職員全体による連携や科目間の有機的な結びつきと効果の創出が課題となる」と述べている。[10]また，今回の調査の回答では「指導案の事例をいくつか貰いたかった」という回答があり，学生に例を示しながら実習記録や指導案を説明することや，学生の理解度を把握しながら授業を進めていくこと，現在使用している実習記録の様式を再検討することもしていきたい。また，ICT 活用の視点からも，現場の理解が得られれば，記録や指導案作成については，手書きでなくパソコン作成は学生の負担軽減になるかもしれない。

次に，3-4 では，保育所実習事前指導に対する満足度を上げることが保育所実習への満足度につながることが明らかとなった。事前事後指導の満足度を「とても満足」と回答する学生が増えるように上記に記載している授業改善に努める必要があるといえる。

自由記述からの分析を行った 3-5 では，学生が実習を通して保育士になりたいと思う要因は，「子どもとの関わりに楽しさを感じること」や「実習を通して改めて仕事に就きたいと感じること」，「保育士と子どもとの関係性や子どもへの対応を見て，理想像に出会うこと」，「実習のそもそもの経験」ということが明らかとなった。また，3-3 の結果において，「子どもへの対応」が 31（50.8%）となり，毎日書く記録や部分実習などで必ず必要となる指導案を除くと，子どもへの対応を学ぶことへの要望を感じ取られた。これは近年，学生が実習を経験するまでに子どもと関わる機会が減少していることからも，そもそもの子どもとの関わりを持たせ，うまく関われたという自信になる経験が保育士を目指すきっかけになることが予想できる。実際に，長谷部（2006）の研究において，実習不安を忌避するために，実習前に見学やボランティア等により保育実践に触れることの有用性を述べている。[11]また，室井ら（2022）の研究でも， 実習を経験することで保育職のやりがいや魅力に気付き，職業イメージが変化したことを述べており，実習そのものがその後の進路指導に重要な影響を与えることを示している。

最後に，3-6 の結果から，「子どもたちの成長に触れること」や「その期間ならではの配慮事項を詳しく知ること」，「クラスの子どもたちの名前を覚えること」，「反省点を次に生かせたり，積極的に行動できたりすること」，「保育士による丁寧かつ優しい指導を受けること」「子どもたちと良い関係性を築くことが出来ること」，「子どもたちとたくさん関わり学べること」などが実習に満足感を持たせることができる要因となることが明らかとなった。松永ら（2019）の調査 でも，保育所での体験が保育観に変化を与えることを明らかにしている。[12]つまり，実習事後指導においては，事前に設定した目標を達成できたかどうか，自己評価を行いながら，自身の保育観について丁寧に振り返っていくことが学生にとって重要になる。

本調査では、「授業改善してほしい内容はありますか？」という質問をしており，その回答は，少数で

はあるが「グループで模擬保育を行うのは大変だった」（２回答）や，「授業環境の改善をしてほしい」（１回答）という回答があった。このことから，グループ活動に積極的ではない学生への個別の働きかけが必要と感じた。授業に消極的な学生が積極的な学生の学びの妨げにならないようにすることも担当教員の役割だといえる。

また、授業への学習意欲の低い傾向の学生は，保育所実習においても満足感は得にくいと推察できる。浅井（2018）は，学生の学習意欲が低下しきってから支援するのでは効果が十分得られないのではないと仮説を立て，入学後 3 カ月時点での学習意欲とそれに影響を及ぼす要因を調査した。それによると，有意な影響を及ぼしているのは「友人関係充実感」と「教員との距離感」で，友人や教員との関係が充実しているほど学習意欲低下に抑止効果があることが明らかになったと述べている。[13]今後はグループワークの際などには学生の人間関係についても注目していく必要があるといえる。

Ⅴ　今後の課題

本研究では，学生の保育所実習事前事後指導や保育所実習への満足度とその後の進路志望に焦点を当て，その動向を探った。今後は，事前事後指導を受ける前の大学入学時点での進路志望から，事前事後指導を受けた後の複数の実習経験後や，卒業までの進路志望の変容過程を調査したい。保育士を志望する学生と，そうでない学生の意識の変容を明らかにし，授業のあり方を検討していく必要があると考える。

また，実習園の指導状況についても進路志望への影響があり，音田ら（2019）は，実習配属先における指導の重要性を指摘している。[14]本研究においても，「園がよかった」「担当の先生から沢山学ぶことがあった」「とても快く受け入れてくれて，丁寧に教えてもらえた」「先生方が優しく指導してくださって実習に行くことが苦ではなかった」等の回答はそのことを物語っているため，今後，実習園での指導状況についても把握しながら，実習園を検討していく必要があるため，今後の課題としたい。

【引用・参考文献】

1)厚生労働省「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」2022
https://www.mhlw.go.jp/content/001018261.pdf（情報取得：2022/12/28）
2）厚生労働省雇用均等・児童家庭局長「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」2022
https://www.hoyokyo.or.jp/material2-2_2022-8-31.pdf（情報取得：2022/12/28）
3）前田有秀「保育専攻生における保育実習経験の効果に関する研究 －保育者効力感変化に影響を与える事前要因の検討－」『尚絅学院大学紀要』73 号，42-54 頁，2017
4）室井眞紀子・園田巌「保育実習が保育職のイメージに与える影響 ～実習前と実習後の比較を通して～」『人間科学部紀要』第 13 号，55-67 頁，2022
5）中野菜穂子「保育実習生の達成感・満足感の構成要素と事前・事後指導の課題」『岡山県立大学短期大学部研究紀要』　第 12 巻，97-105 頁，2005
6)清水裕士 「フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研 』1 号，59-73 頁，2016
7）樋口耕一「テキスト型データの計量的分析 ―2 つのアプローチの峻別と統合―」『数理社会学会理論と方法』19 巻 1 号，　101-115 頁，2004
8）樋口耕一「計量テキスト分析における対応分析の活用－同時布置の仕組みと読み取り方を中心に－」『コンピューター＆エデュケーション』47 巻，18-24 頁，2019

9）全国保育士養成協議会「平成２９年度　子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」『報告書』95 頁，2018
10)中西利恵・曲田映世・藤本麻子・山口美智子・岩口摂子・木村久男・細川速見・山本和明・渡辺美穂子・川中美津子・高岡昌子「変化の時代における保育者養成教育のあり方－特に学外実習指導における効果的な教育方法の検討－」『相愛大学研究論集』第 29 巻，73-79 頁，2013
11）長谷部比呂美「保育実習に関する学生の意識について―実習不安を中心として－」『淑徳短期大学研究紀要』第 46 号，81-96 頁，2006
12)松永しのぶ・坪井寿子・田中奈緒子・伊藤嘉奈子「保育実習が学生の子ども観，保育士観におよぼす影響」『鎌倉女子大学紀要』 9 号，23- 33 頁，2019
13）浅井拓久也「養成校学生の学習意欲低下の要因に関する研究－入学後 3 ヶ月時点の調査をもとに－」『小池学園研究紀要』№16，49-56 頁，2018
14)音田忠男・浅香勉・八田清果・奥恵「保育士養成校における保育実習配属先の傾向と実習指導のあり方について」『埼玉東萌短期大学研究紀要』17 号，77-85 頁，2019

【脚注】
注 1．精選版 日本国語大辞典では，満足感について，「自分の思いどおりに事が運んで，満ち足りた感じ。文句なしの気持。」と記載されていることから，本研究においては，あったことに対して満ち足りているかどうかの個人の感情を示す際に使用する。
注 2．実用日本語表現辞典において，満足度は「満足の度合い，の意味の表現。」と記載されている。そこで，本研究においては，研究手法により示した一定の尺度を求めた満足の度合いを測るものを示す際に使用する。

Abstract

In recent years, the effective ratio of job offers to job seekers for childcare workers remains high compared to all other occupations. And before improving the quality of childcare, it is an urgent task to take measures against it. In addition, although the number of nursery teacher qualifications is increasing year by year, there are many nursery teachers who do not work at nursery schools. Therefore, as a role of training schools, it is necessary to implement classes that make students want to become nursery teachers, and to increase the number of nursery teachers who work at nursery schools, etc. through experience of practical training at nursery schools. Then, it is necessary to examine the current teaching methods.

As a result of the survey, students who were highly satisfied with pre- and post-practice classes at nursery schools were also highly satisfied with their practical training at nursery schools.